

第一章 序論

1-1 研究の背景

近年、最終処分場の逼迫などで、産業廃棄物を減量化する中間処理の重要性が高まってきた。そして、中間処理は廃棄物の量を減らすことに重点が置かれてきた。しかし、持続可能な社会を達成するために、中間処理に必要なエネルギーのことも考えなくてはいけなくなってきた。

だが、その間に必要なエネルギーの量は詳しくは明らかになっていない。また、個々の事業所については調査があるが、全体として検討されるには至っていない。その理由に、中間処理事業所は全国に 19,474 社あって、処理方法や使っている装置は様々だということがある。

また、中間処理事業所の取り組みに対して、エネルギー削減の視点から見た現状調査も無い。そして、その取り組みがエネルギー削減にどの程度影響があるかも明らかになっていない。

1-2 研究の目的

- 1、産業廃棄物の中間処理にかかるエネルギー消費量の原単位を算定し、どのような事業所が多量に資源を消費しているかを明らかにする（第二章に対応）。
- 2、中間処理事業所の取り組みの現状を明らかにする（第三章に対応）。
- 3、原単位に影響を及ぼす取り組みを明らかにする（第四章に対応）。
- 4、中間処理の資源を節約するための提案をする（第五章に対応）。

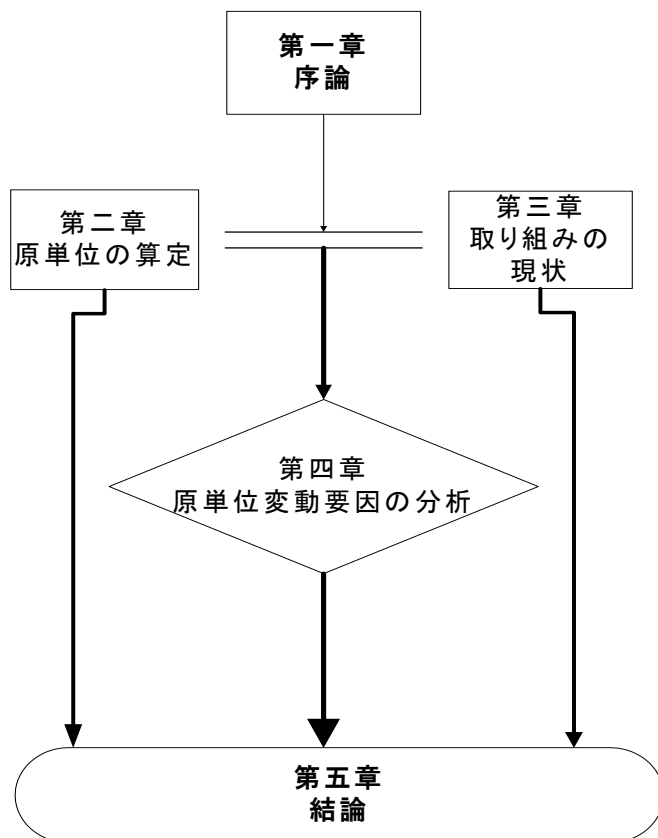
1-3 研究の意義

本研究は廃棄物にかかるエネルギー消費量を予測するためのデータの一つとなり得る。また、滋賀県の産業連関表を作成する際の有意なデータとなる。そして、中間処理にかかる資源をより削減するための改善点を提案できるものとして意義がある。

1-4 本研究の方法

全国の中間処理事業所のエネルギー消費量などのデータをアンケート・ヒアリングにより収集して分析する。そして、中間処理にかかる資源の使用量原単位を求め、その数値を左右する要因を分析する。また、別途アンケートにより調査した取り組みをまとめ、現状を把握するとともに原単位の数値と比較して考察する。

1-5 本研究の構成



第一章では、本研究の背景、目的を述べている。

第二章では、中間処理にかかる資源の原単位の算定結果を述べている。また、それぞれの処理方法ごとに年別変化、規模による変化をまとめた。

第三章では、中間処理事業所に対するアンケートをもとに、エネルギー削減に対する中間処理事業所の取り組みの現状を述べている。

第四章では、第二章、第三章の結果をふまえて取り組みが原単位にどの程度影響しているかを調査した。

第五章では、これからの中間処理において中間処理事業所・行政・排出事業者のそれぞれの立場から考慮しておくべきこと、行動するべきことを提案する。

1-6 本研究の用語

産業連関表・・・滋賀県の環境要因を取り入れた産業連関表のことを指す。

事業所・・・中間処理事業所のことを指す。

原単位・・・産業廃棄物中間処理にかかる資源の使用量原単位を指す。

エネルギー・・・中間処理に使用する石油、電気などのエネルギーのことを指す。

資源・・・エネルギー+水、薬剤などのことを指す。

規模・・・年間処理能力の大きさを指す。

全国アンケート・・・原単位調査のためのアンケートを指す。

石油類・・・重油、灯油、軽油を指す。

減重率・・・減少する重量の割合のことを指す。